

研究の原点とルール:Beginning Science

上村 匡

京都大学大学院生命科学研究科

京都大学大学院生命科学研究科では、入学したばかりの大学院修士課程の学生を対象として、科目「研究の原点とルール:Beginning Science」を2011年度から始め、私が講師の一人として担当しています。「広く科学に携わる職業を目指すために必須の興味とスキルとは何か?」と大学院生に問うのをスタートとして、研究不正の定義や、データを正確に解釈する方法などを議論します。

このような内容の科目を講義する一教員として、以下の3点に頭を痛めており、恐らく同様の科目を担当される全国の先生方の共通の悩みではないかと思えます。第一に「研究不正」を論じていると心が荒みます。講義をする側も、受講する側にも、精神の荒廃に陥らないための工夫はないでしょうか。第二に、「研究倫理」を振りかざすと道徳論や精神論になりがちで、大学院生には正直なところ退屈です。彼らに、「今日から自分の研究に役に立つ。」と思わせ、引き付けなければなりません。そして第三に、自分がかつて受講したことのない内容の講義を構築する教員側の苦勞です。以上について、私の限られた経験ではありますが、問題点を共有して頂き、議論させて頂ければと存じます。